

日本共産党 石田 秀三 議員

教室の暖房設備について

(質問) 寒い冬の教室に暖房をと求めてきたが、現在、普通教室にストーブが配備されているのは鈴峰中と西部4小学校、その他の小学校の1年生の教室のみという状態である。今どきどこ家庭でも職場でも、エアコンがあって当たり前という時代、鈴鹿市は遅れている。冬のストーブぐらいは全教室に完備すべきである。これ

までもPTAの寄付等で付けられてきたが、市で予算措置をすべきでないか。全教室にストーブを入れても、4～5千万円でできる。

(答弁) 体温調節が困難な児童生徒が在籍する特別支援教室への配備を最優先、音楽室等の特別教室には必要に応じて設置しているが、普通教室は、当面は現行どおりの考え方とする。設置しないと決めているのではなく、各学校で判断していただくものである。また寄付などあれば、喜んでいただく。

その他の質問 ○三重県版学力テストについて

日本共産党 森川ヤスエ 議員

子どもの貧困対策について

(質問) 就学援助の支給費目について、要保護世帯・準要保護世帯を同様にすべき。また、ホームページで情報発信し制度の周知を進めること。就学援助制度では入学支度金が支給されるが、運用上支給が7月になり入学に間に合わない。制度の趣旨を活かすため入学準備金貸付制度の設置を求める。さらに高校・大学等入学に多額の

費用がかかるため、どの子も進学できるよう無利子で入学一時金や奨学金貸付制度等の設定をすることを求める。

(答弁) 就学援助制度について、費目の追加は県内他市と同様、考えていない。ホームページによる案内は導入したい。また、入学準備金貸付制度については、導入や運用について研究していく。奨学金貸付制度については、本市にはすでに天野奨学金制度があり、新たな制度を開始する予定はない。

その他の質問 ○介護施設補助金不交付事件について

無所属 市川 哲夫 議員

高齢者みまもりネットワークについて

(質問) 鈴鹿市の現状、今後の課題について。

(答弁) 見守りに対する現状では、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを進めるため、地域包括支援センターの協力を得て認知症サポート養成講座を開催し、認知症の方々やその家族に対する支援の輪づくりに努めている。また、65歳以上の単身高齢者及び65歳以上の高齢

者のみ世帯に、安否確認を行うことを要件として配食サービス支援事業を行っている。他には、徘徊のため行方不明となった方の早期発見及び保護を目的とするネットワークを、民間事業者等の協力により構築し、見守り活動も行っている。各機関の協力を得て、見守り体制は機能できているが、見守りを行う主体間の連携については体系付けて取り組むまでには至っておらず、個人情報取り扱い、住民同士の係わり合いの希薄化等課題もあり先進地等を参考に検討していく。

緑風会 宮本 正一 議員

放課後児童クラブについて

(質問) 「鈴鹿市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例」が施行され、運営の充実が求められるが、鈴鹿市の対応について質す。

(答弁) 入所児童数は5年前の1,186人から345人増加している。平成27年4月には全ての小学校区で38か所の放課後児童クラブが民営により運

営される。これまで放課後児童クラブの施設確保に努めてきたが、量的拡充から質の改善が求められる中、「鈴鹿市放課後児童クラブガイドライン」を策定し活用していただく。現在、空き家などを借用した民設民営から公設民営へ移行するため施設整備計画の策定を進めている。今後も国や県へ補助制度拡充に向けた要望を行うとともに、支援員の確保や配置、処遇改善など課題解消に向けて運営主体の皆さん、地域、小学校とも連携し放課後児童クラブの更なる充実に向けて取り組んでいきたい。